

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 5月 3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277101446
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 北寺島の家
所在地 (電話番号)	浜松市北寺島町206-27 (053-413-3220)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月21日

## 【情報提供票より】(平成21年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤19人/ 非常勤0人/ 常勤換算15.6人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての1階～3階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥50,000	その他の経費(月額)	¥13,000
敷金	無し		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ¥200,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,500			

### (4) 利用者の概要(平成21年2月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	10 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低 67 歳	最高	95 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック、加藤歯科、松野歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜松駅近くの市街地に、周辺に川や桜並木があり落ち着いた住宅街に立地するホームである。館長の強いリーダーシップがあり、ユニットリーダー・職員間の連携の下に、「利用者が地域の中で自由に暮らす」を目指して、外部・自己評価を全員で取り組み、運営推進会議の有効活用や地域との良好な関係を築き地域の中で利用者の落ち着いた生活を支援するホーム運営が行なわれている。今後は更に家族への報告の工夫や、終末期対応の経験を活かし、全職員でホームとしての方針やマニュアル等の整備・共有を図る取り組みに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	外部評価の内容は、毎週の全体会議などで職員間で確認し出来ることからの改善が実施され、同業者との交流や終末期対応を除き改善への取り組みが確認出来た。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価も各ユニットごとに全職員で話し合い、気付いたことは全体会議で共有し改善に向けた取り組みが行なわれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	2ヶ月に1度、自治会長・民生委員・中区役所職員・かかりつけ医・利用者・家族・ホーム職員の参加の下に定期的に開催され、ホームの状況報告や取り組み、家族の意見・要望や地域との話し合いの場として有効に活用している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	運営推進会議での話し合い、来訪時の面談等を通して家族の意見・要望を各職員が聞き取り、毎週の全体会議などで職員間で共有しホーム運営、改善に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域自治会に加入しており、町の行事や秋祭り、凧揚げ、敬老会などに参加したり、ホーム主催の納涼祭には近所の人達の参加もあり、また、小・中学校の体験学習受け入れなどを通して地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関、各フロアに開設後職員全員で作った「暖かい手、思いやりの心でその人らしく地域の中で暮らせるよう支援します」という理念を掲げ、利用者が自宅と同じように自由に暮らせるよう支援する理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週の全体会議を主体に、利用者のカンファレンスや、勉強会、各ユニットの課題などが話し合わせられ利用者の言葉に耳をかたむけ理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入しており、町の行事や秋祭り、凧揚げ、敬老会などに参加したり、ホーム主催の納涼祭には近所の人達の参加もあり、また、小・中学校の体験学習受け入れなどを通して地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の内容は、毎週の全体会議などで職員間で確認している。同業者との交流や終末期対応を除き、出来る事から改善への取り組みが確認出来た。自己評価も各ユニットごとに全職員で話し合い、気付いたことは全体会議で共有し改善に向けた取り組みが行なわれている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、自治会長・民生委員・中区役所職員・ホームドクター・利用者・家族・ホーム職員の参加の下に定期的開催され、ホームの状況報告や取り組み、家族の意見・要望や地域との話し合いの場として有効に活用している。		

静岡県グループホーム北寺島の家

6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口とは日頃から行き来や相談を行い、浜松市介護サービス事業者連絡協議会にも参加しており、介護相談員の受け入れなども実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族のホーム訪問頻度が高く、来訪時の面談や、電話連絡、運営推進会議などで意見交換を行なっている。来訪の少ない家族へは請求書送付時に近況報告の手紙なども添え報告している。	○	運営推進会議や家族来訪時の面談、手紙等で状況報告は実施されているが、家族アンケートの一部には暮らしぶり報告や介護計画の話し合い、健康・医療・安全面などへのやや不満の声もあり、家族とのコミュニケーションの機会を更に拡大する取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での話し合い、来訪時の面談等を通して家族の意見・要望を各職員が聞き取り、毎週の全体会議などで職員間で共有しホーム運営、改善に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は他事業所への異動は無く、全ての職員が全ての利用者に関わりを持ち各ユニット間の利用者同士の交流もあり、職員の異動・離職に備え利用者へのダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週の全体会議での勉強会や、法人全体の職員研修の仕組みがあり、年3回のレポートによる自己啓発や外部研修受講の促進や、資格取得への体制も整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜松市介護サービス事業者連絡協議会での交流の他、地域の総合病院勉強会に参加したり、地域居宅介護支援専門員による認知症講習の場を設けたりしている。	○	管理者のみならず、職員も他ホームとの交流により、相互の気づきや自身の介護技術の確認にもなり視野も広まることなどが期待できることから、同業者との交流の機会作りへの取り組みを期待したい。

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、生活歴、趣味・趣向等を参考にして、馴染みの私物を持ち込んだ環境を作り、家族とも相談をしながらその場の雰囲気や職員に徐々に慣れるように支援をしている。</p>		
----	----	---	---	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除や洗濯、料理などの家事や、菜園での野菜作りなどを通して利用者の得意なことを教えてもらったり、会話で冗談を言い合ったりしながら一緒に楽しめる生活を支えている。</p>		
----	----	---	---	--	--

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時、利用者の生活歴等の事前調査を十分に行い、本人の要望や意向を汲み取っている。なおかつ、職員は事前調査からはわからない新たな利用者の思いを、介護の中で声掛けや、観察から見つけ出そうとしている。</p>		
----	----	---	---	--	--

### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の日々の変化を職員は観察し、申し送りノートに記入することにより、利用者の様子や状態を、職員全体で共有しようとしている。週1回の職員会議にて、集められた情報を基に皆で話し合い介護計画を作成している。新年度からは、計画作成を担当していない職員にも、介護計画作成の訓練をすることにより、管理者は、職員に新たな視点を求める試みもしようとしている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に対するモニタリングは、利用者の些細な変化も見逃さないよう毎月行われている。モニタリングされた結果は、利用者状態変化が見られた場合、いち早く介護計画に反映され、利用者や家族に説明がなされている。</p>		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医への受診支援や、地域の小中学生に対し介護講座、体験学習の受け入れなども行っている。近隣住民の介護に対する疑問にも電話で対応する等、地域の高齢者介護の拠点になりつつある。また、家族がホームに気軽に宿泊するなど、柔軟な対応が見られる。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は以前のかかりつけ医、ホームの協力医どちらでも受診可能であるが、利用者と家族の納得の下、主にホーム協力医への受診支援を行っている。協力医は、3カ月に1回の往診も行っており、利用者の状態把握は万全である。また、緊急時は24時間の対応もしており、十分な医療支援がなされている。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	10名以上の看取りを経験している。職員は日々の利用者との関わりの中で、協力医の支援もあり、前向きに看取りについて考え話し合っている。しかしながら、重度化や看取りに関する、明確な指針や家族の同意書等が整備されていない。	○ 管理者やユニットリーダーの豊富な経験を基に、ホームとしての明確な指針や看取りに関するマニュアル等の作成や指針等を家族に示し、同意を得る取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報等は、事務室にて管理されている。日常の声かけは、利用者の尊厳を傷つけるような会話は認められず、なおかつ、親しみのあるものであった。	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは持っているが、利用者それぞれの自由度は高い。午前中、駐車場のプランターの植物の手入れをする利用者や、昼食後、気ままに散歩に出かける利用者も見られ、利用者の希望に沿う支援がなされている。	

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜中心の利用者に合わせた職員手作りの食事は、大まかなカロリー計算もなされており、利用者の笑顔に繋がっている。食後、利用者が当たり前の様に台所のカウンターに下膳している姿は、とても自然なものであった。食器は、自由であるとの事であったが、利用者の握力等の観点から、軽いものが使用されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日、水曜日以外の午後に自由に入浴を楽しむことができる。3ユニットある特徴を生かし、日々入る浴室を変えている。そのことにより、利用者の近所の銭湯に浸かりに行くという気分を盛り上げ、入浴を楽しいものとする支援がなされている。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	壁には、利用者作成のちぎり絵や、折り紙の大作が掲げられている。巾着袋に折り紙や広告の切れ端を入れ、居間のテーブルで細かい折り紙を楽しむ利用者、別のユニットでは、利用者女性陣が洗濯物を畳む手伝いと、職員は見守りを基本に、利用者それぞれに合わせた支援をしている姿が見てとれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はほぼ毎日、近隣の桜並木に飾られた川の堤等に散歩に出かけているとの事であった。お弁当を持つての遠足等は、事業所本部の車両を気軽に借りることが出来るため、利用者の楽しみとなっている。利用者の家族との外食等の支援も怠り無い。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解している。防犯目的や利用者に害の及ぶ可能性のあるとき以外は、玄関等に鍵はかけていない。家族等の訪問や利用者の気ままな散歩等のため、職員の見守る中で、ホームへの自由な出入りが認められた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や警察の協力の下、年2回の防災訓練を行っている。ホームは3階建てのため、避難に関しさまざまな工夫をしている。食料の備蓄は準備されているが、飲料水の備蓄は不十分である。	○	災害時、1人当たり3日分の飲料水の備蓄が求められている。3ユニットあるため備蓄は多量となるが、事業所本部の理解の基、必要量の備蓄が望まれる。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量と水分摂取量は記録に詳細に残されていた。食事のカロリー計算も大まかになされており、利用者の血圧や体温の観察も十分にされている。</p>		
----	----	--	---	--	--

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関では、プランターに植えられた草花に、来訪者は迎えられる。台所から続く居間は、管理者の「新しいホームに比べたら狭いんです。」の言葉はあるものの、十分な広さが確保され、清潔に保たれていた。南面窓から入る暖かで柔らかな光は、利用者の日向ぼっこには最適である。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者思いの馴染みのある筆筒や文机等が持ち込まれており、中には、位牌を持ち込まれている利用者も居た。利用者の以前の生活を垣間見る様である。寝具はベッドや布団と色々で、利用者に合わせた物となっており、利用者が心地良く過ごすことのできる環境作りがなされている。</p>		